

さんは23歳。いまでは、すっかり祇園甲部の顔です。そんな紗月さんがお薦めの店の巡り方を教えてくださいました。

「祇園又吉」は、紗月さんがお客様とごはんなたべの機会が多い店で、時折、芸妓仲間とランチに立ち寄ります。「お兄さんとこの料理は全部おいしいし、器を眺めていても楽しい」。稽古が終わり置屋に帰るところ、おなががすいたので無理を言っておにぎりを作ってもらったことも。祇園町は支え合いなんです、と紗月さん。そして、お姉さんに差し入れてお菓子を買うために、その足で「加加阿365」へ。日替わりのチョコレートは重宝しているといいます。次に、祇園甲部歌舞練場にできた新名所「フォーエバー現代美術館」へ。舞台上草間彌生の作品が展示されるなど、舞のお披露目の場がアート空間になっていて、紗月さんもびっくりしたといいます。

もう少し時間があるときは書店の「京都天狼院」に立ち寄ります。女子好みの書棚があるカフェの空間は、誰と来てもほっとする場所なんです、と紗月さん。でも、のんびりしているのも束の間、「今日はこれからお稽古です」と、紗月さんは、祇園にあるお稽古場に向かって、路地を抜けて歩いていきました。



美術館でお腹を落ち着かせて、

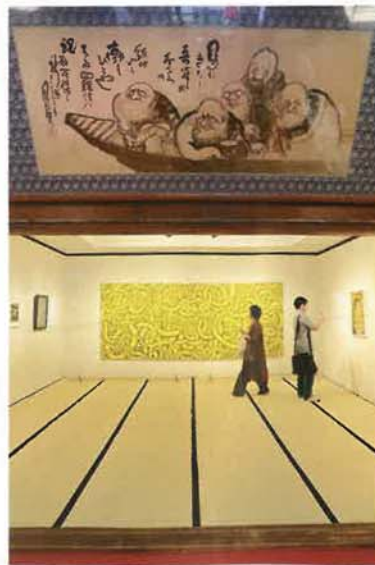


**フォーエバー
現代美術館**
(祇園甲部歌舞練場内)

祇園甲部歌舞練場内にある、大正2年に建てられた伝統的日本建築の有形文化財の八坂倶楽部。この建物が現代美術館になったのは2017年6月。30年以上かけて収集された700点近くのコレクション、その6割近くを草間彌生の作品が占める。現在、「草間彌生 My Soul Forever」展(2018年2月25日まで)開催中。

京都市東山区祇園町南側570-2
☎075-53210270
開10時~18時(入館17時30分まで)
※12月30日~1月6日

「イベントのときに、この舞台上で舞ったことがあります」と紗月さん。展示された作品は「私の魂を乗せてゆくボート」(1989年)。



(写真上から時計回りに) 数個しかない作品「南瓜」(2007年)を前にパチリ。さっそくInstagramにアップ。演舞場の建物に、庭園、そして作品「黄樹」(1992年)を回る。